

# 日中労働情報フォーラム

## 第4回総会議案書

2016年4月16日  
日港福会館（東京・蒲田）

### <総会次第>

#### 第1部 総会（13：00～14：45）

- 1 開会あいさつ
- 2 議長選出
- 3 代表あいさつ
- 4 議事
  - (1) 2015年度活動報告について
  - (2) 2016年度活動方針（案）について
  - (3) 日中交流助成基金について（案）
  - (4) 2015年度決算報告、会計監査報告について
  - (5) 2016年度予算（案）について
  - (6) 役員選出について
  - (7) その他
- 5 議長解任
- 6 閉会あいさつ

#### 第2部 特別講演（15：00～16：30）

「東京の満蒙開拓団」 藤村妙子（東京の満蒙開拓団を知る会）

## はじめに

戦後70年の昨年は、映画「ジョン・ラーベ」上映運動、「日中不再戦の誓いの旅」をはじめ、学習会や講演会への参加など積極的に活動してきました。一昨年から中国側の受け入れ窓口は中華全国総工会から中国職工対外交流センターに代わったわけですが、きちんと引き継がれ、学習の機会を用意してくれるなど私たちの要望も受け止めてくれました。日中労働情報フォーラムを結成して3年が経過したわけですが、活動の基礎的条件を整備することができたと言えます。

これからは、日中労働情報フォーラムの活動をさらに充実させていくことが課題です。当フォーラムの原点は「日中不再戦の誓い」です。原点を忘れずに、安保法制制定後、中国を敵国だとますますあおって軍事強化を図り、平和憲法改悪を意図する安倍政権と対決していくこと、経済が減速していく中国社会で安定した労働関係の構築をめざす試みに注目すること、日中友好活動を若い人に伝えていくことが重要です。

私たちは、21世紀はアジアの時代と捉え、日中関係の国際的な位置をしっかりと見据え、今ほど日中友好連帯が重要な時はないことを自覚して、日中労働情報フォーラムの着実な前進を図っていきたいと思います。

## <2015年度活動報告>

### <2015年度活動方針>

#### 1 事業活動

- (1) 「歴史に学び、未来をみつめる」ための原点として「反覇権・日中不再戦の碑」は重要な意味をもっています。国家式典となった南京大虐殺犠牲者追悼式典に毎年参加するようにします。若い人も参加できるよう企画していきます。
- (2) 中国の労働事情に関する学習会を開催します。昨年の訪中団は中国の労働事情について中国から講師を派遣して日本で講演会が開けないか打診をし、中国側も検討する約束しています。情勢を勘案しながら開催できるように努力します。
- (3) 映画「ジョン・ラーベ～南京のシンドラー」の上映会に協力し、上映運動を取り組みます。東京では7月20日（月・祝）午後日本教育会館で、大阪では7月18日（土）夜にエルおおさか南館で上映会が開かれます。
- (4) ホームページを充実し、中国の労働事情に関する発信を続けます。
- (5) 中国労働問題をウオッチしている他の組織との連携を模索します。

#### 2 組織活動

- (1) 会員の拡大を図り、100人の会員をめざします。また、賛助団体を募り、財

政基盤を確立するようにします。

(2) 第4回総会を関西で開催できるように準備します。

## 1 事業活動

### (1) 訪中団の派遣

① 「日中不再戦の誓いの旅」として、12月13日（南京大虐殺記念日）に合わせて伊藤代表を団長に、前川、清水、佐々木（史）、佐々木（有）、西山、小林の7名が12月10日から15日まで訪中しました。北京では中国職工対外交流センター、中国国際交流協会と懇談するとともに盧溝橋の中国人民抗日戦争記念館を見学しました。南京では、南京大虐殺犠牲者国家追悼式典参加、記念館新館の見学、キャンドルナイト参加、南京大学、南京師範大学などの史跡、慰安婦旧所陳列館の見学など、昨年より南京に2泊したことにより多くの見学をすることができました。

### (2) 学習会の開催

- ① 昨年、第3回総会の特別講演として鳥井一平移住連事務局長が「拡大する外国人実習生制度の課題」と題して特別講演を行いました。
- ② 10月24日、張浩川先生（復旦大学日本研究センター副教授）を招いて「中国経済の現状と雇用の動向」と題するセミナーを大阪で開催しました。東京でも張浩川先生を囲んで懇親会を開催しました。減速がすすむ中国経済と日本の関係について、興味深い話を聞くことができました。中国関係企業にも案内を出しましたが、企業側の参加はありませんでした。
- ③ 12月11日、呂国泉先生（中国工運研究所所長）が、訪中団に対して「新常态における調和ある労働関係の構築」と題する講義をしました。現在中国の労働政策を体系的に説明してくださいました。
- ④ 今回の第4回総会では、東京の満蒙開拓団を知る会の藤村妙子さんに「東京の満蒙開拓団」と題して講演をしていただきます。

### (3) 映画「ジョン・ラーベ」上映運動

戦後70年であった昨年、8月15日には安倍首相が談話を発表することが予定されていなかったので、対抗する企画として映画「ジョン・ラーベ」の上映運動を展開しました。多くの方が鑑賞しましたが、上映運動のひとつの目的でもある若い世代に歴史事実を正しく知ってもらうにはさらに工夫と努力が必要です。

- ① 大阪では7月18日（土）夜、エルおおさか南館で上映しました。200人の会場に270人が来場しました。
- ② 東京では7月20日（月）午後、日本教育会館で上映しました。800人の会場に1200人以上の人が来場し、第二会場を設けましたがそこもあふれ、200人弱の方が入場できませんでした。
- ③ 東京の葛飾で12月6日（日）午後、かつしかシンフォニーヒルズ・アイリスホー

ルで上映し、160人の来場者がありました。

- ④ 徳島では12月13日、「戦後70年平和ミュージアムとくしま」のプログラムの一つとして、徳島大学常三島キャンパスで上映し、240人の来場者がありました。

#### (4) 中国の労働事情の発信

- ① 10月からホームページをリニューアルし、見やすくしました。ユーザー数は1日平均10人程度、年間掲載件数も70件になり、会員からの投稿も増えてきました。
- ② ホームページには、ホームに中国労働運動の最新ニュース、資料として「人民日報」のインターネット配信の日本語版である「人民網」からの抜粋、さらに、日中労働情報フォーラムの活動、会員からの投稿、中国労働問題の文献紹介などを掲載しています。

#### (5) 他団体との連携

- ① 8月31日、中国大使館が主催する中国人民抗日戦争・世界反ファシズム戦争勝利70周年記念レセプションに出席しました。
- ② 9月29日、中華人民共和国建国66周年祝賀会に出席しました。
- ③ 村山首相談話を継承・発展させる会が開催した講演会、シンポジウム、出版記念会に参加しました。
- ④ 移住者と連帯する全国ネットワーク（移住連）がNPO法人となりました。そのNPO法人設立記念パーティが10月30日に開かれ、参加しました。

## 2 組織活動

- (1) 日中労働情報フォーラムは、労働組合活動家だけでなく、中国研究者、中国からの留学生など、中国の労働事情や日中関係に関心を持つ人たちの組織として、幅の広さをもつようになりました。
- (2) 「日中不再戦の誓い」のチラシを作成し、ジョン・ラーベの上映運動と合わせて配布してきました。
- (3) 東京では、12月26日に忘年会を開催し、会員の親睦を図りました。
- (4) 会員は現在60名です。目標の100名には達しませんでした。少しずつですが会員が増えています。
- (5) 第4回総会を関西で開催する予定でしたが、関西の会員数が少ないこと、学習会の講師の都合により東京で開催することにしました。

## <2016年度活動方針（案）>

### 1 事業活動

- (1) 「日中不再戦の誓いの旅」の第2弾として、8月に北京、ハルピン、瀋陽、大連を訪問する旅を実施します。また、国家式典となった南京大虐殺犠牲者追悼式典に毎

年参加するように昨年確認しましたので、今年も参加します。これらの「日中不再戦の誓いの旅」に若い人も参加できるよう企画していきます。

- (2) そのため、日中交流助成基金を設立します。若い人で訪中を希望しながら、金銭的に困難な人に、旅費の一部を助成するものです。一口5000円とし、趣旨に賛同する個人、団体に基金を呼びかけます。
- (3) 中国の労働事情、あるいは日中戦争の実相、日中友好の取り組みなどに関する学習会を開催します。
- (4) ホームページを充実し、中国の労働事情に関する発信を続けます。
- (5) 中国労働問題をウォッチしている他の組織との連携を模索します。

## 2 組織活動

- (1) 会員の拡大を図り、100人の会員をめざします。また、賛助団体を募り、財政基盤を確立するようにします。
- (2) 会員相互の親睦を図る催しを行います。

以上